

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ライフエナジーチェェコロ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日		～ 令和8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 5日		～ 令和8年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的知識を要する職員が在籍し、児童一人ひとりの特性や発達段階に応じた手厚い支援を行っている。	個別支援計画や専門的支援実施計画に基づき、職員間で連携しながら少人数・個別対応を行い、児童の理解度や気持ちに寄り添った支援を実施している。	職員間での情報共有をより一層強化し、支援内容の統一と継続性を高める事で児童一人ひとりに応じた支援の充実を図る。
2	地域の行事に参加する機会を設け、児童が地域社会と関わりながら社会参加を経験できる支援を行っている。	事前に活動内容を分かりやすく説明し、不安の軽減を図った上で安全に安心して参加出来るようにしている。	地域との連携を深め、参加できる行事の幅を広げると共に、児童の成功体験に繋がる活動を検討していく。
3	小集団トレーニングを通してルールを守りながら楽しく活動出来るよう工夫し、SSTを取り入れ社会性を学ぶ事が出来るよう支援している。	視覚支援や声掛けを工夫し、成功体験を積み重ねながら対人関係や集団へ参加する力を育てられるよう支援している。	児童の特性や状況に合わせたプログラム内容の見直しを行い、より実生活に行かせるSSTの実施を目指していく。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	部屋の構造上、全体を一望する事が難しく、死角が生じやすい。	死角が生じやすく、児童の安全確保のため職員配置を細かく行う必要がある。また、手厚い支援が必要な利用者様がいる際の職員配置も課題となっている。	職員間での声掛けや、情報共有を密にし連携体制を強化する。活動スペースの使い方を工夫し、見通しを確保しやすい環境づくりを行う。
2	下校時間が遅い児童については、来所時間が限られ、療育時間が短くなってしまふ場合がある。	小集団活動やSSTなど一定時間を要するプログラムへの参加が難しくなってしまう事がある。また、時間が限られている事に焦りや不安を感じてしまうことがある。	短時間でも楽しみながら効果的に取り組める療育内容を工夫する。学校・保護者と情報共有を行い、児童に合わせた療育を行っていけるよう工夫する。
3	保護者同士が交流できる場を十分に設けられていない。	父母会や保護者会を実施しておらず、交流の場を設ける事が出来ないため。	連絡帳や面談等を活用し、保護者への情報提供の充実を図ると共に、交流の在り方を検討していく。